

学校だより

翔 空

No. 35 平成24年 1月10日 (火)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限らない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

「ダイヤモンドダストに対する淡い思い出」

今では、もう20年近くも前のことになります。私が裏磐梯中学校に勤務していた頃のことです。1月も末近くになると、朝の最低気温がマイナス10度を超える日も多く、ダイヤモンドダスト現象が見られました。ちなみにウィキペディアによると、「細氷（さいひょう）とは、大気中の水蒸気が昇華してできた、ごく小さな氷晶（氷の結晶）が降ること。ダイヤモンドダストとして有名である。よく晴れた朝など、気温が氷点下10℃以下の状態のときに発生する。視程は1km以上である。日光で輝いて見えることから、ダイヤモンドダストと呼ばれる。人工的に作ることもできる。」との説明があります。

今では、地球温暖化現象のためか、最低気温もマイナス10度以下になることはあまりなく、ダイヤモンドダストは見られなくなってしまったのではないかと心配です。かすかな記憶の中の淡い思い出となっています。でも、今年の冬はわかりませんね。



※ 今回は、百人一首はお休みです。

「3学期はとても大切な学期です」

～「なぜ勉強するの」と子どもに聞かれたら？～

今から2年ほど前の暮れに、「テレビ寺子屋」という番組で「なぜ勉強するか」の話題についてお話しされた作家の方がいて、感心して聞いた記憶があります。その作家とは、映画「らせん」や「リング」の著者で有名な鈴木光司さんですが、彼のお話の概要は次のようなものです。鈴木さんの娘が、ある報道ニュースを見ていて、「パパ、なんだか世界ってどんどん悪くなっているね。」と話しかけてきたのです。そこで、鈴木さんは、本当に、今の世の中が以前と比べて悪くなってきているのか、徹底的に話し合いました。その結果、「まだまだ未解決な問題は多く残っているが、世界はよりよくなってきている。そして、将来はもっとよくなるはずだ。」鈴木さんは娘にこう教え諭し、「そのために、鈴木君は何をしたらよいか考えてごらん。」と投げかけました。

良い意見がしっかりとと言えるようになるためには、世の中のしくみをよく知ることが必要だし、未来の日本や世界に立派に貢献しようと思えば、勉強をもっとしなくてはなりません。深く、広い考えや視野を持ち、「高邁な目標・理想」をかかげ、そこに向かって努力することが、若い人たちにみんなに課せられた大きな課題なのです。

こんなふうに話せば、中学生や高校生には十分理解可能ではないでしょうか。私たち大人もそのようにしっかりと考えを持って子どもたちを大きく育てていきたいものだとつくづく感じます。

最後に、3学期は大変短いけれど、とても大切な学期です。冬の寒さに負けることなくみんなががんばりましょう！

「冬来たりなば春遠からじ」

今年も、学校だよりをご愛読ください。

勉強するって、楽しいことなんだ。
世の中のしくみをしっかりと理解して、みんなの力でもっともっと
過ごしやすい世の中にしたいね！

